

◆障害学生の修学支援・II◆

第三回 スキルアップ

筑波技術大学教授 石田久之

ノートテイカーについての課題として、人手不足を書きましたが、もう一つ、技術とその向上についておられる必要ががあります。

要約筆記

テイカー（略してこのように呼ぶこともあります）の作業とは、要するに、先生の話を聞き、また、教室内の状況を見て、それらをそのまま文字として書き表す、ということです。が、実際には、簡単な作業ではありません。

先生が話す速度とテイカーが書く速度、もちろん個人差はありますが、話す速度は書く速度の五〜六倍あります。当然、全てを書ききれないこととなります。そうなる、話された内容について、テイカーがまとめる、短くする、要約するという処理を行わなければなりません。

ノートテイクを「要約筆記」といいますが、私は実際にポイントを言い表した言葉だと思えます。全部を書きたいのだ

けれども書けない。だから、是非もなく要約せざるを得ない、ということ。です。

テイカーの作業内容

前節の話を技術あるいは技能との関係で、もう一度見直してみます。

第一に書くという作業ですが、この中には、速く書く、読みやすい字で書くなどのスキルがあります。スキルである以上、個人により上手、下手がでてきます。

更に、正しく要約する、適当な長さにとまとめる、前後の関連を不自然にしないなどの能力も必要です。

最後に、適切な語句を用い、見やすく標記し、そして、これらを、瞬時に行うという能力が必要。です。

こうして見てくると、かなり個人の技量というものが反映される作業だということが分かります。そうであるなら、当然、誰でも、分かりやすく、なるべく情報の漏れがないようにノートを取るテイカーについてももらいたいと思うでしょうし、他方、初心者や技量の低い人に当たれば不満も出るでしょう。

一番よいテイカーは、前年度に同じ授業を取った上級生という話をよく聞きます。授業の内容が分かっている、適切に要約できるだろうということですが、残念ながら、

そのようなテイカーが十分揃っているというお話は聞いたことがありません。

また、ノートテイクの難しさは、個人の能力の問題だけではなく、連携という面についてもあります。前回説明しましたように、通常二人で交代にノートを取りますが、その交代のタイミングなども重要です。交代時に大事な説明がなされることもあり、分からなくなつたという苦情も出るそうです。

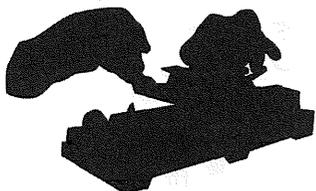
厳しい現実も

このような問題に対し、テイカーの技術を向上させたり、テイカー間の差を小さくするようなスキルアップ講座・研修会の開催は重要です。

また、定期的に障害学生と支援学生との懇談会を開催して、意思の疎通を図り、何が問題でどのようなしたらよいかを自由に話せるような場や環境を整えることも必要でしょう。

しかし、技能である以上、適・不適があり、どうしても上手にノートを取ることができない人もいます。そういう学生には、テイカーをやめてもらうこともあるそうです。

厳しいとは思いますが、障害学生も授業を一所懸命聞いているわけですから、止むを得ないことだと思えます。ま



た、他の支援作業もありますから、こちらで頑張つてもらうということもできます。

新しい方法と再び能力差

さて、話す速度は書く速度の五〜六倍と先に書きましたが、これを何とかできないかということでも考えられたのが、パソコン（PC）テイクです。

手で書く代わりにパソコンを用い、聴覚障害者の前にあるパソコン画面に、PCテイカーが入力した講義内容を表示させるものです。ノートテイクの二〜三倍の速度を出せるそうです。PC間の接続など若干準備が必要ですが、利用者には心強い情報保障システムと言えます。が、今度はキー入力という問題が生じます。

今時、パソコンに触つたことがないという学生はいないと思いますが、キーボードを華麗に使いこなせる人ばかりではありません。携帯電話のキー打ちなら早いけれど、パソコンはちよつとという人も多いのではないのでしょうか。ここでもまた技能の習得とその向上、個人の能力差という問題が出てしまいます。

（今回のカット、何でしょう。本文とは関係ありません。答えは日本学生支援機構障害学生修学支援HPに。）